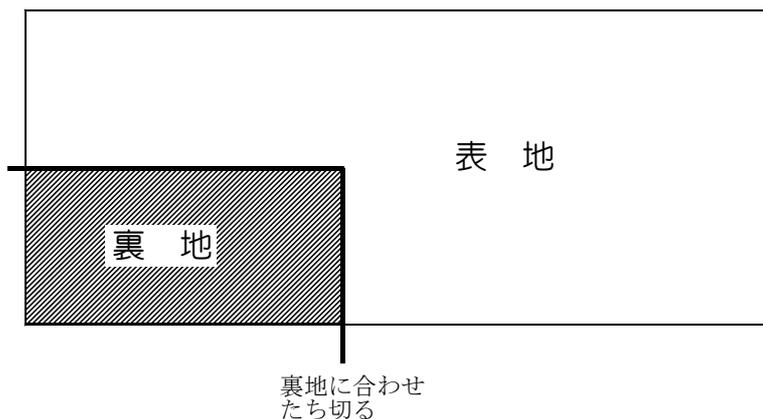


1, 裁断

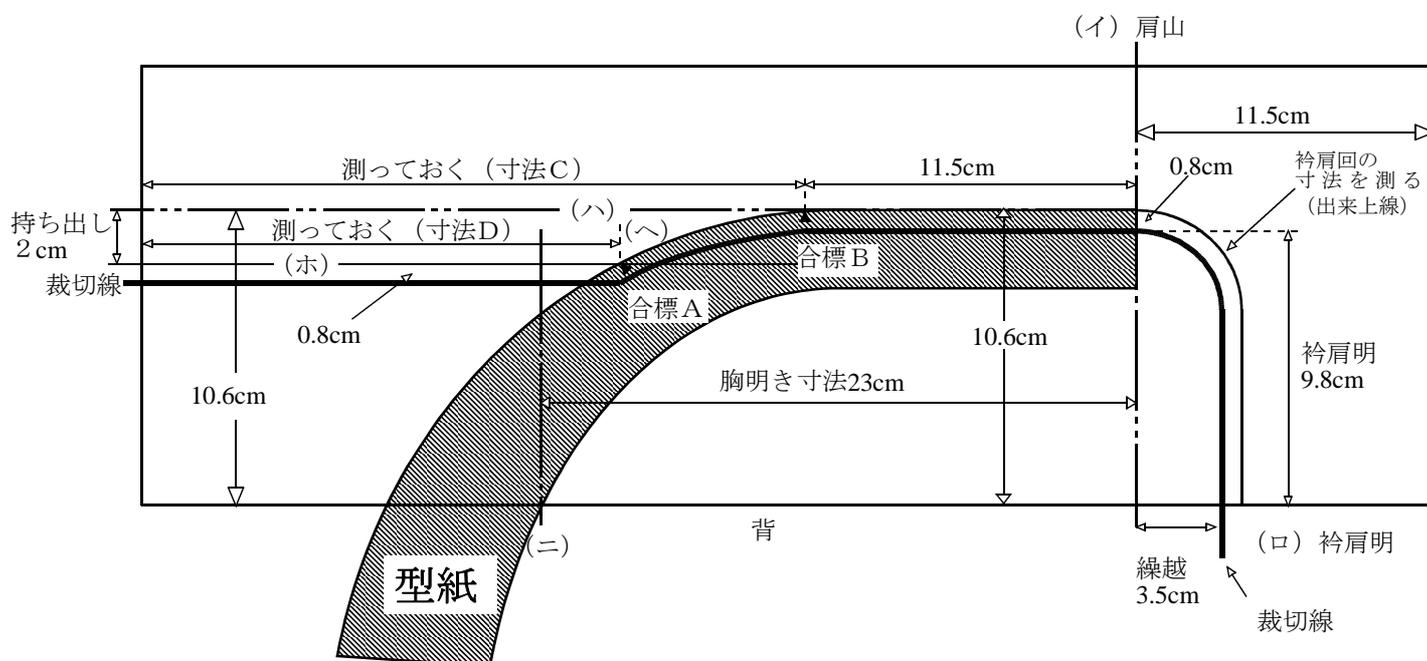


表地の上に裏地をのせて裏地の大きさに合わせ表地を裁断する。

2, 標付け

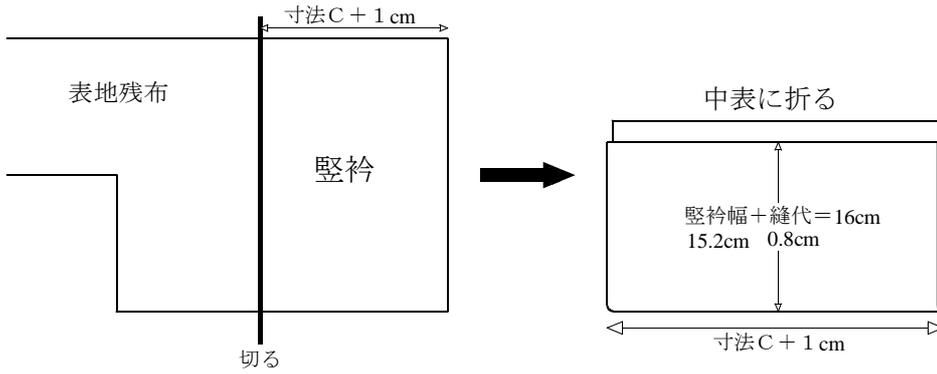
(1) 身頃

表地を上、裏地を下、中表に合わせて標付けをする。



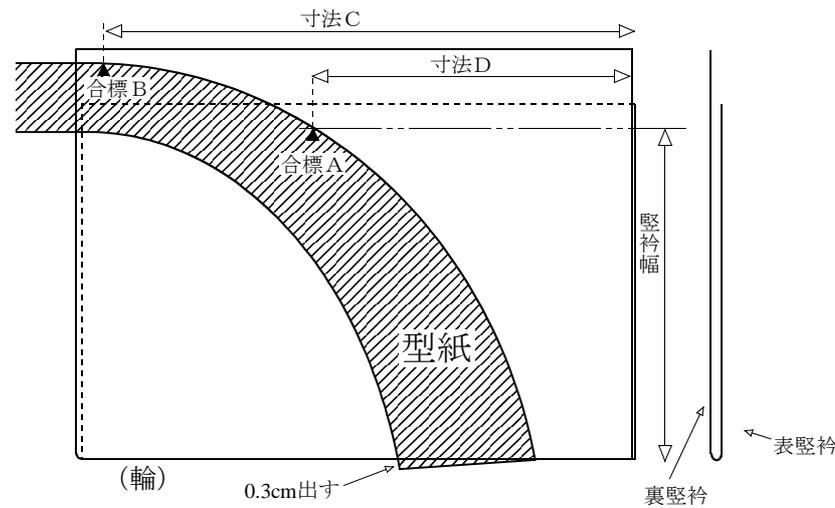
- ①標 (イ) : 布端より 11.5cm のところに肩山の標を付ける。
- ②標 (ロ) : 肩山線より繰り越しをとり、衿肩明き (裁ち切り線・布端 (背) から 9.8cm) を標付けする。衿肩明き裁ち切り線より 0.8cm 外側 (衿付け線) の標を付ける。衿肩回り (背より肩山までの長さ) を測っておく。
- ③標 (ハ) : 布端より 10.6cm ($9.8 + 0.8 = 10.6$ cm) のところに標を付け、肩山より 11.5cm (胸明き寸法の 1/2) のところに合標を付ける。(合標B)
- ④標 (ニ) : 肩山より胸明き寸法 23cm のところ。
- ⑤標 (ホ) : 標 (ハ) より持ち出し分 2 cm 手前。(縦衿付け線)
- ⑥標 (ヘ) : 合標B、標 (ハ)、標 (ホ) と型紙の合標とを合わせ、衿付け線の標付けをする。合標Bから裾までの寸法 (寸法C) と、合標Aから裾までの寸法 (寸法D) を測っておくこと。

(2) 縦衿

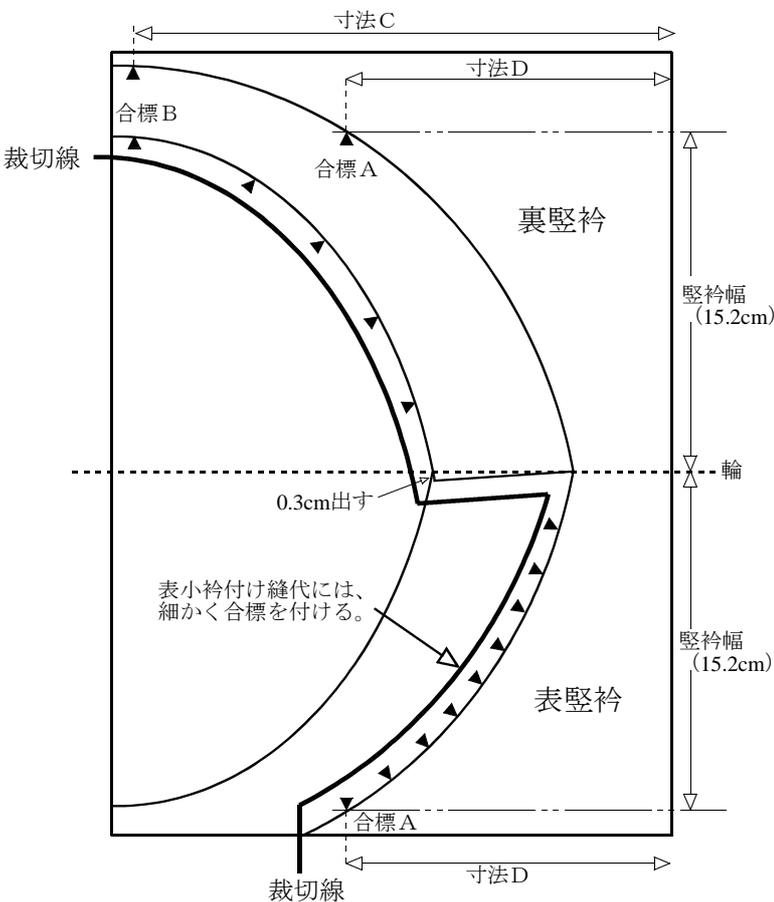


左図のように表地の残布より縦衿布丈 (寸法C + 1 cm) を裁ち落としし縦衿布とする。

次に、中表に縦衿幅 + 0.8cm (16cm) で軽く折る。



輪より縦衿幅 15.2cm で標付けをし、裾より表縦衿丈の寸法 (寸法D)、裏縦衿の寸法 (寸法C) の合標をし、小衿型紙の衿先と、縦衿の輪を合わせ衿型の標を付ける。



①上図のものを広げ、左図のようにする。(裏が上)

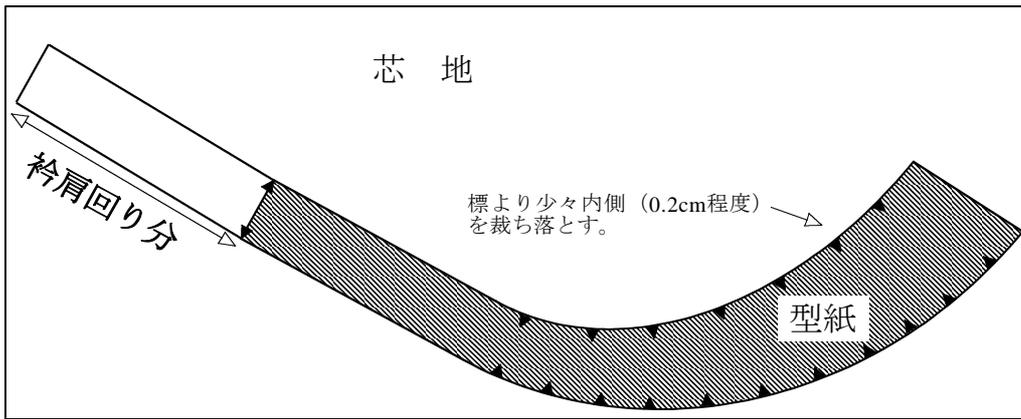
②小衿先では、0.3cm 斜めに裏小衿先を出す。

③縫い代側で、型紙の合標を写す。特に表衿の縫い代は、細かく合標を付ける。

④左図のように、0.8cm 縫い代を付けて裁断する。

(3) 表小衿

衿芯

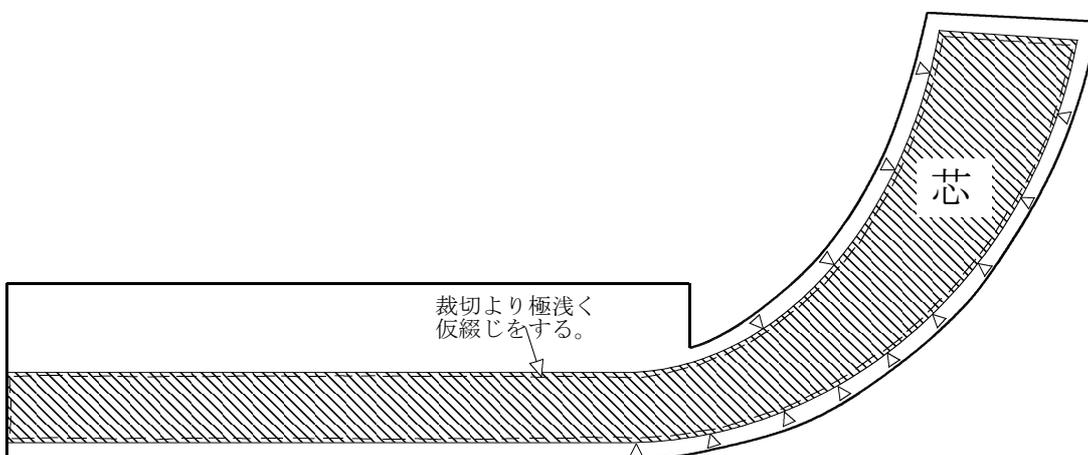
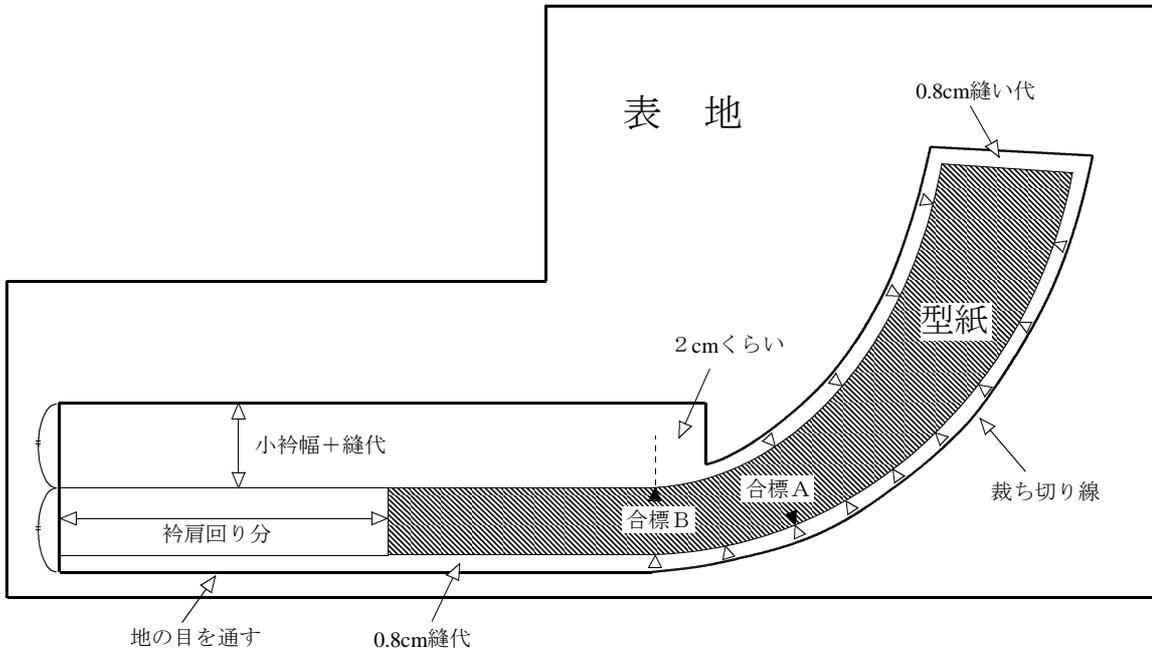


- ① 芯の上に型紙を置き、標を付ける。
- ② 左図のように型紙端より衿肩回り分、芯を付ける。
- ③ 標より 0.1cm 程度 (芯の厚み分) 内側を裁ち落とす。

表小衿

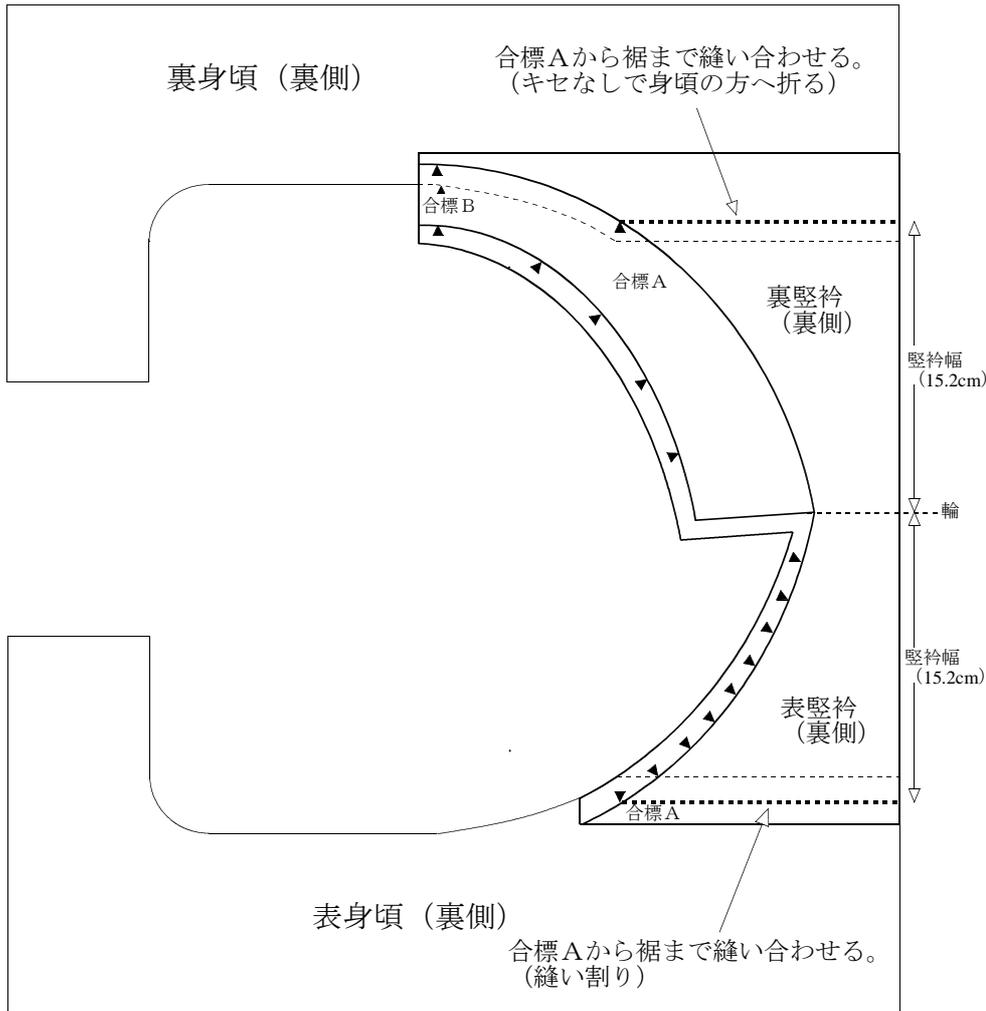
表地に型紙をのせ標付けをし、縫い代側に合標を付ける。

合標Bより背にかけては、小衿裏を付けるため、合標Bより 2 cm 手前から小衿幅+縫い代分 (0.8cm) の標を付け、下図のように裁ち落とす。

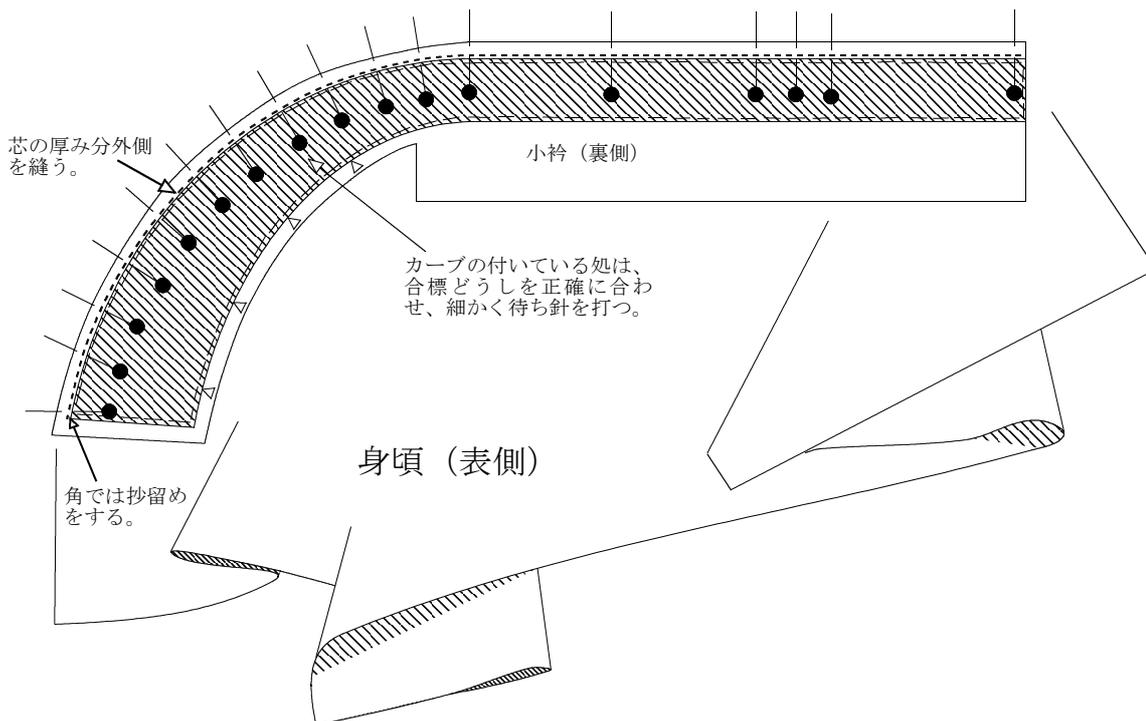


左図のように、標付け、合標に合わせて芯をのせ、芯の裁ち切りより極く浅いところに仮とじをする。つり合いに注意すること。

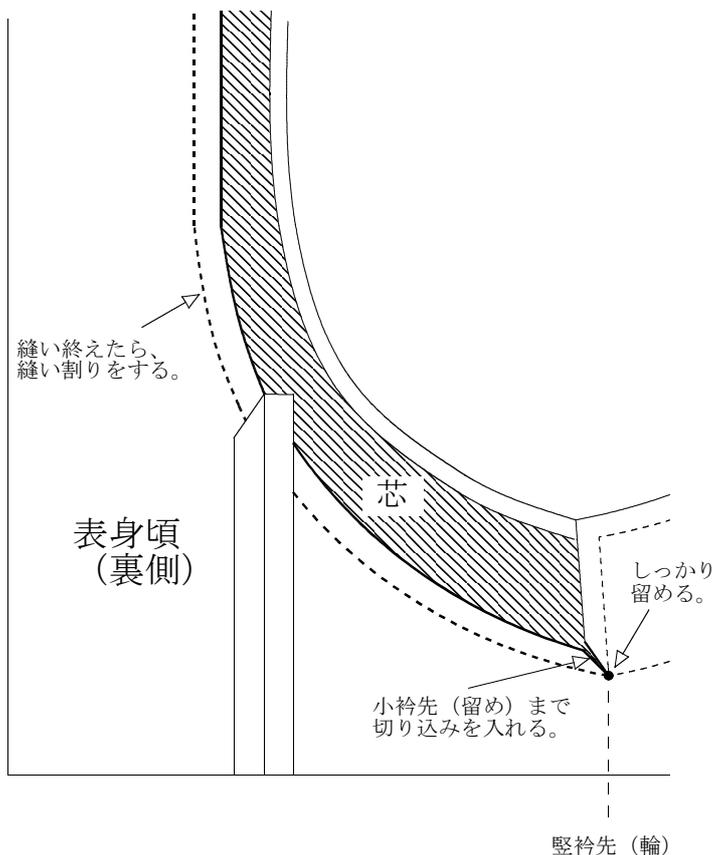
3, 縫い合わせ



①表、裏身頃と縦衿の合標 A から裾まで縫い合わせ、表縦衿付けは縫い割り、裏縦衿付けは裏身頃側へキセなしで縫い代を倒す。



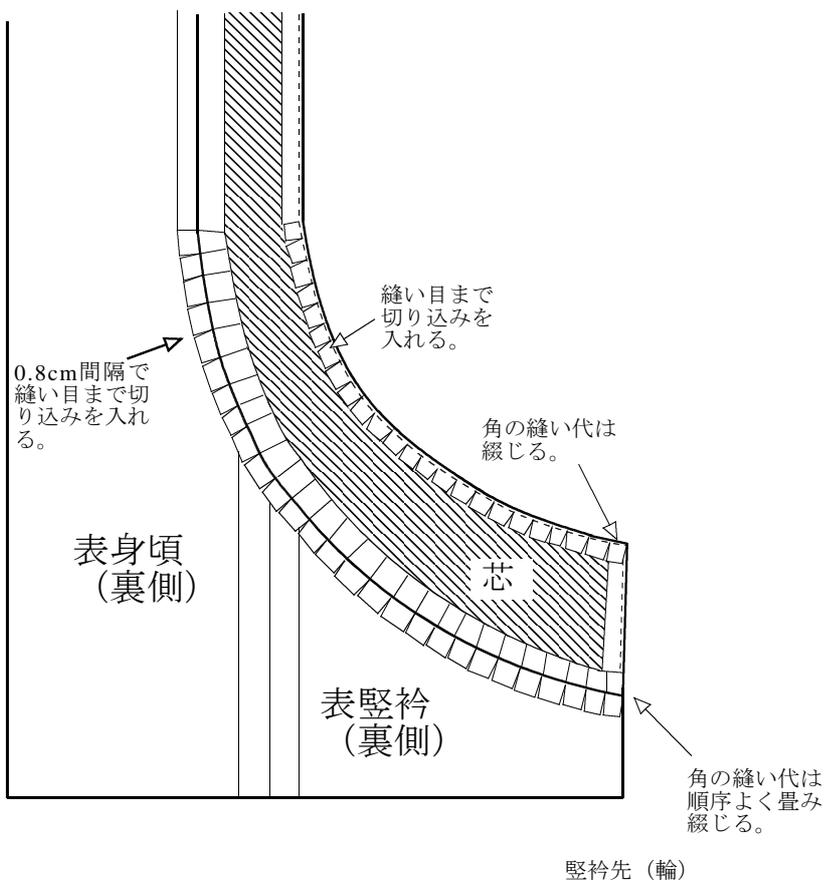
②左図のように、小衿を手前にし、表身頃とを背から小衿先まで標通りに縫い合わせる。表縦衿と小衿とは、逆のカーブが付いているので、合標を一つずつ合わせ、標通りに縫い合わせる。縫い代は縫い割りをする。

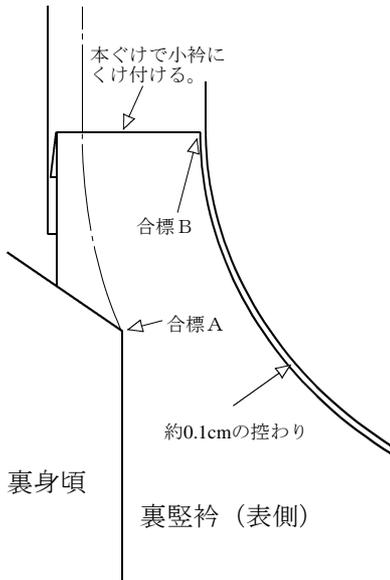


③小衿先では、角の標を合わせ、抄い留めをし、縦衿縫い代に切り込みを入れる。小衿先は裏小衿先が 0.1cm 位控わるように、標より表小衿先は、0.2cm 外側と裏小衿先は 0.1cm 内側を縫い合わせる。表小衿の方へ、キセなしで折る。

④衿先から、合標Bまで縫い合わせる。表小衿の標より 0.2cm 程度外側と裏縦衿の標を合わせ、縫い合わせ、縫い代は、キセなしで表小衿側(芯の方)へ折る。

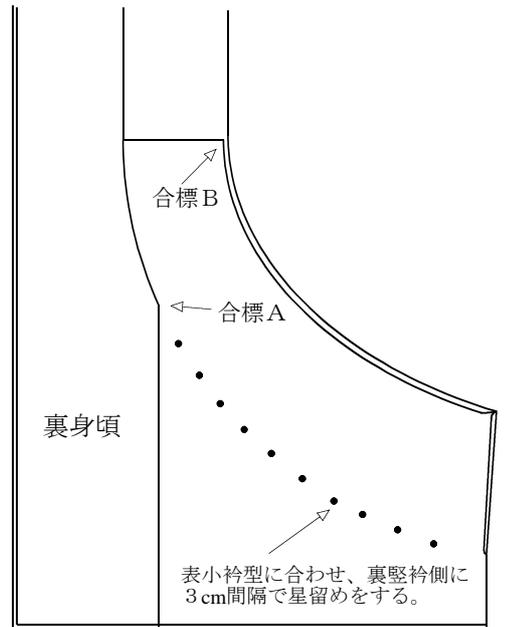
⑤右図のように小衿、縦衿、身頃(衿肩回りなど)で、カーブが付いている縫い代に 0.8cm 間隔で切り込みを入れる。芯は、縫い代にのり付けするか、綴じ付ける。





⑥表に返し、合標Bで、裏堅衿と小衿裏を本ぐけし、合標AからB、続けて背ま
でを縫い合わせる。縫い代は、裏身頃の方へキセなしで折る。

- ⑦ 堅衿付け、小衿付けの縫い目を合わせ、中綴じをする。
 ⑧ 右図のように裏堅衿を整え、堅衿裏側に小さな目を出しながら 3cm 間隔
 で小衿先から合標Aまで小衿の中綴じをする。



⑨ くるみボタンを作り、小衿先にくけ付ける。(小衿との地の目を揃える)

